

# 腎臓内科

## 主な対象疾患

ネフローゼ症候群、急性腎炎、慢性腎炎、急速進行性腎炎

慢性腎不全、急性腎不全

糖尿病性腎症、膠原病関連腎症、生活習慣病関連腎症

血液透析治療（導入、維持）、腹膜透析治療（導入、維持）、透析併用療法、腎移植管理  
急性血液浄化療法

## 診療科の特徴

- ・腎炎、ネフローゼ症候群が疑われる場合は、速やかに精密検査をすすめ、必要であれば腎生検を行い正確な病理診断に基づき治療を行います。入院を必要とする治療は当院で、外来治療が可能な場合は、近隣の腎専門医へ紹介します。
- ・糖尿病性腎症、高血圧性腎症でご紹介を受けた場合は、栄養指導、生活指導を中心に行い、かかりつけ医診療の継続診療をお願いします。
- ・保存期腎不全には、腎臓機能を保持する治療を優先すると同時に、血液透析、腹膜透析の腎代替療法と腎移植治療について説明します。
- ・透析のあらゆる合併症に対応するため、各診療科との連携を図り、透析患者の診療を行います。
- ・透析以外の血液浄化療法も積極的に実施しております。
- ・腎移植を希望する方には、腎移植説明外来（月1回）を筑波大学・消化器（移植）外科の医師が行っております。
- ・腎臓学会、透析医学会、腹膜透析医学会、腎臓リハビリテーション学会、HDF研究会などの学会認定施設として多くの医療者の研修を行っております。

## メッセージ

2023年度より、日立医療圏の人口や疾病構造を考慮した、新たな腎臓内科の診療体制づくりを進めております。外来に来られる方々は、地域の頼れる腎臓専門医への診療におまかせし、入院適応の方に対しては、日立総合病院の使命である急性期治療、専門医療を担うホスピタリストとして、迅速で質の高い診療で腎予後の改善を目指します。今後は、血液透析・腹膜透析（および併用）・腎移植内科・保存的腎臓治療のすべてを習得できる、希少な研修施設となることも目指します。

院内の診療科の協力はもとより、地域医師会の先生方と連携協力することにより、日立医療圏の腎疾患患者様の健康と幸福に寄与することが究極的な目標です。皆さまのご協力・ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

主任医長  
永井 恵

# 診療実績

## ・2022年診療実績:

入院患者延べ数: 5,189人、新入院患者数 :230人、平均在院日数16日

外来患者延べ数:16,349人

内シャント手術:75件、腹膜透析カテーテル挿入術:7件、腎生検:33件、シャントPTA:54件

長期留置型カテーテル留置術:20件

## ・入院・外来診療実績(月別平均患者数の推移)

2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
入院(名/日)	10	9	8	7	8	10	10	11	11	9	8	8
外来(名/日)	38	39	39	39	39	38	37	37	37	36	37	37
透析(名/日)	47	48	47	45	46	47	47	47	48	44	44	45

## ・透析診療実績(月別患者数の推移)

2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
外来患者(回)	990	939	1053	1010	1003	975	967	1003	956	929	962	1008
入院患者(回)	257	217	28	183	210	264	269	284	296	224	198	213
病棟出張(回)	6	12	10	4	4	14	21	13	16	8	11	12
腹膜透析患者	15	14	13	15	15	14	14	16	18	17	16	16

# 医師紹介

主任医長 兼 筑波大学附属病院

日立社会連携教育研究センター准教授

永井 恵 (ながい けい)

日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医

医長 影山 美希子 (かげやま みきこ)

日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会専門医

医員 新坂 真広 (にいさか まさひろ)

医員 黒河 周 (くろかわ しゅう)

非常勤医師 斉藤 知栄 (さいとう ちえ)

非常勤医師 植田 敦志 (うへだ あつし)

非常勤医師 高橋 一広 (たかはし かずひろ)

非常勤医師 石橋 駿 (いしばし しゅん)

◆お問い合わせ◆

(株)日立製作所日立総合病院

地域医療連携室

〒317-0077 茨城県日立市城南町二丁目1番1号

TEL: 0294-23-8343

FAX: 0294-23-8412